

NPO 法人緑地雑草科学研究所 第3回公開シンポジウム
(旧称：防草緑化技術研究所)

緑地雑草の機械的制御の現状と課題

趣旨：緑地雑草制御の方法には機械や除草剤の利用、マルチ資材、被覆植物の活用その他いろいろありますが、これら各ツールの本質、特性、可能性について私たちは真に把握し、その機能を生かしているのでしょうか。当研究所の一連のシンポジウムでは、正しい雑草管理とは各ツール本来の機能を目標達成のために適所適材的に組み合わせ、総合的に活用すること（IWM：integrated weed management）であるという立場に立って、各ツールを順次検証しています。

今日、公園・緑地、道路・鉄道敷き、工場、集合住宅、空き地にいたる緑地の雑草管理は、もっぱら‘清掃作業’として随時的に行われています。この除草自体が目的化され、雑草の生理・生態を無視した低水準の管理作業の結果、除草コスト増大と環境負荷の拡大を引き起こしています。

近年、都市域の温熱環境と二酸化炭素濃度の変化は、雑草の生育期間と生育量に大きな影響を及ぼし、花粉の飛散量や多年生雑草の地下繁殖器官のバイオマス量を著しく増大させています。それにも関わらず繰り返し行われる不用意な除草作業は、年ごとに刈取と集草作業を困難にし、その運搬と廃棄物としての処理費用の増加をもたらしています。さらには大型多年生外来雑草への植生移行や難防除侵入雑草木類の繁茂など、ますます事態を深刻にしています。

このシンポジウムでは、現在“清掃”のツールになっている機械的方法について、雑草との関わりにおいて本来の機能的特性を十分に生かし、雑草の適切な管理に使いこなすにはどうすればよいか、緑地雑草問題と利用の現状を踏まえながら考える機会にしたいと思います。

期待される成果：緑地（畦畔、法面なども含む）の雑草管理とは何かについて関係者に明確なメッセージが伝わる。すなわち、農地の雑草管理が作物の保護・収穫を目的とした短期的除草作業であるのに対して、植栽と植生、景観・美観、土壌と大気、施設、防災・安全性など緑地機能の動態維持・保全を目的とする継続的な管理作業であることが理解される。そして健全な緑地の維持管理を行うためのツールとして機械的制御技術の特性が生かされ、環境および経済合理性の基に正しく利用される。

<プログラム>

日時：9月9日 午後1時から5時

場所：ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）1201号室
（JR名古屋駅から徒歩2分）

プログラム：

— 開会 13：00 —

1. 緑地雑草問題と機械的制御方法（13：10～13：40）
伊藤幹二（NPO法人緑地雑草科学研究所）
2. 雑草からみた機械的防除（13：40～14：10）
伊藤操子（京都大学名誉教授）
3. 作業性からみた機械的防除：畦畔・法面の草刈作業の負担軽減
（14：10から14：40）
亀井雅浩（独立行政法人近畿中四国農業研究センター）
4. 機械化による草刈作業の労力軽減（14：50～15：20）
野田雅憲（株式会社オーレック）
5. 道路管理からみた機械的防除（15：20～15：50）
音成正明（西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社）
6. 総合討論（16：00～16：40）
— 閉会 16：45 —

参加費：会員：無料（講演要旨集代も含め）
非会員：3000円（当日入会の場合は無料）

☆ 5時30分から簡単な懇親会を予定しています。

主催：NPO法人緑地雑草科学研究所

<http://www.bousou-ken.org>

TEL:0778-51-1144

運営委員長：伊藤幹二